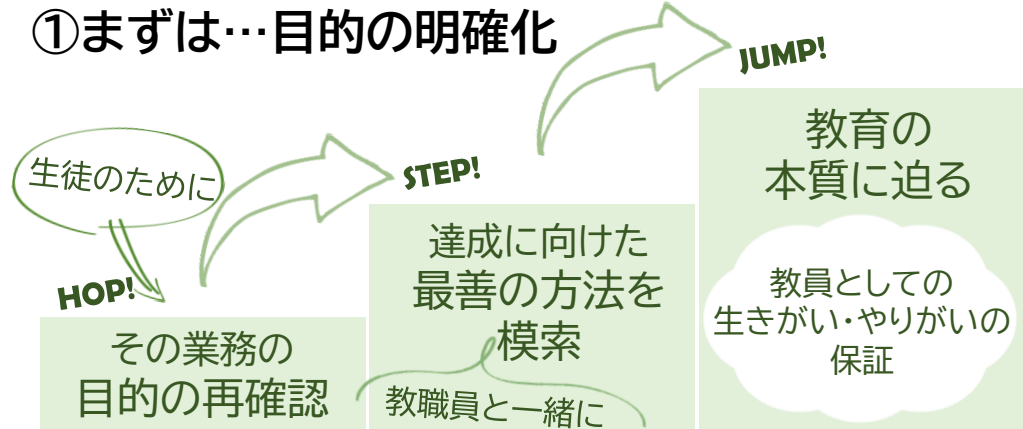




GGKも「教育の本質に迫るための取組」

あわら市 金津中学校に伺いました

①まずは…目的の明確化



- 制度変更や新たな取組の前に、「何を指すのか」という共通理解が重要。
- 教職員一人ひとりの「共感」「納得」があるからこそ、全体での業務改善が進む。「意識改革」が進むことで、やる気につながる。
- 減らすだけではなく、「代替案」を出す。
 - ・そこから本質に迫ることができる取組が
 - ・教員の負担にならないものか

②そして、教員の主体性を高める

①での丁寧な説明を経て実施へ。学年部会・指導部会・学習部会での検討を重視 ×トップダウン

取組【1】職員会議の見直し

共通理解の方法を改善

Before

月1回企画委員会を経て月1回職員会議
・大量の資料・長時間の会議・検討の機会 少

Now

週1回企画委員会(空きコマ活用)
必要に応じた共通理解の場の活用
・月2回の現職教育の前段で短時間実施
・C4th連絡掲示板、校長通信の活用
・各部会の活用で主任から共通理解を図る

POINT

・×前例踏襲⇒◎真に必要な事業を実施
・主任を中心とした組織力向上で先を見据えた検討が可能に

取組【2】通知表所見欄の削除

保護者との共有
生徒の意欲を育てる

Before

通知表10月・3月、保護者会7月・12月
・所見作成:言葉、文脈の確認修正が負担
・通知表が無いため保護者会資料作成が負担

Now

三者面談を10月・3月に実施
「言葉を伝え合う時間」に
①成果と課題を伝える ②生徒に話させる
教科担任面談を7月・12月に実施
・教科担任と生徒が成果と課題を確認
・授業中に実施(タブレット学習と並行)

POINT

・具体的な中身のある話し合いができる
・生徒の主体性が育まれる

取組【3】朝活動の見直し

教職員の勤務開始と
生徒の登校完了時刻の調整

Before

勤務開始 8:00 登校完了 8:00
朝読書 8:00~8:10

Now

勤務開始 8:00 登校完了 8:10
朝読書⇒自主的な活動
・読書習慣は一斉の朝読書では身につかない
・福井新聞ふくe刊活用(閲覧状況の確認が可能)
・eライブラリー(タブレット学習)の活用

POINT

・朝の時間にゆとりが生まれ、
落ち着いて朝の会へ
・生徒個々の自主的な活動を促進



取組【4】補充を希望制へ

意欲のある生徒を
とことん伸ばしていく

Before

考査前、長期休業中
進路時期の補充学習 全員参加型

Now

すべての補充を全員参加から希望制へ
・実施時期の拡大
・空き教室活用による学習室の整備
・部活動指導体制を2~3人にすることで、
交替で放課後の補充学習にも対応可能

POINT

・面談で課題が明確になることで、
主体的に生徒が学んでいる
・先輩の姿を見て徐々に後輩も…

取組【5】生徒主体の学校行事

うまくいかないことも含めて
すべてが学び

Before

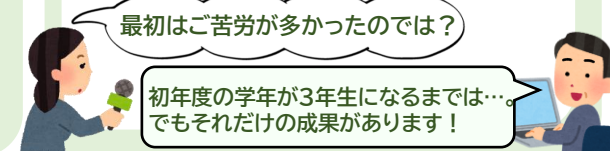
本番の見栄えを気にした念入りな予行
イベント化してしまった学校行事の負担

Now

生徒主体で失敗しても取組を評価
目的に合わせた行事へ再構築
・支援に回ることによって指導にかけた負担軽減
・職場体験を地域の方とのミーティングへ
・「あわら考幸学」の一環で生徒企画の校外学習

POINT

生徒の主体性が育つ



記者より:必要最小限の廊下の掲示物、ノーチャイムなど、準備や指導の負担を減らしつつ、自ら考える生徒が育つ例がたくさんありました。

取組【7】時間外在校等時間目標設定 Before 管理職からの働きかけで管理 Now 教職員で話し合い月の時間外在校等時間の上限値を設定

結果として 時間外在校等時間 45時間以下割合(のべ) 令和3年度:55.7%(県44.5%)⇒令和4年度:63.0%(県45.9%)

知っていますか? こんなワード

ジョブ・クラフティング

自分自身の仕事に対する意識を主体的に捉えなおして、仕事の方法を変えたり、よりやりがいのあるものにできるよう再設計していく手法のことを「ジョブ・クラフティング」といいます。

VOL.1で取り上げた「令和5年度 学校の業務改善」の具体策3つの第1の柱は、「子どもの自主性を育む手をかけすぎない指導」。これには、ジョブ・クラフティングが必要と言えますね。今回の金津中がまさにジョブ・クラフティングです。

ぜひ、GGKを「削減」「縮小」などの時間の削り出しの段階から、「より良い教育」のためのジョブ・クラフティングへステップアップさせていきましょう。そこから、さらに第3の柱「新たな挑戦」へつなげていきたいですね。

編集後記

昨年度も今年度も各校への取材を通じて、取組の目新しさや目先の成果よりも、「意識」や「想い」こそ重要であると感じています。どの学校においても、それを土台として、現状の課題の洗い出しや準備、取り組む課程での見直しが進められていました。

成果を得るには、学校だけではなく、市町や県教委の関わりが欠かせないものもあります。このGGKニュースを通じて様々な「意識」や「想い」から、私たちが取り組むべきことも引き続き考えて参ります。

取組【6】地域との連携

「あわら市民」として
生徒たちを育てていく

Before

地域から依頼された生徒ボランティア
すべて学校で取りまとめて募集・管理

Now

地域の方から直接声掛け
生徒は自分の意志で応募
市役所職員が校内放送で直接呼びかける例も

POINT

・地域とのつながりを感じ、意欲的な
生徒が集まりやすい
・地域から直接学べる

日ごろから新聞等に取り上げられて
教職員もモチベーションUP

次号 VOL.5も
お楽しみに!

